

補綴臨床 別冊
PRACTICE IN PROSTHODONTICS
EXTRA ISSUE

オクルーザルコンタクト **A to Z**

良好な咀嚼運動のために

Gunther Seubert 著

大畠 一成 訳

D.シュルツ氏
推薦の書

歯の形と歯列の構築を追求する
歯科医師・歯科技工士の福音となる一冊

「人間が皆それぞれ異なるのと同様に、歯もさまざまである。歯科医師も歯科技工士も症例ごとに異なる課題に向き合っている。機能性とは審美性を決定付ける因子であり、なかでも臼歯部、顎関節領域における正しい相互作用こそが良好な咀嚼運動という機能の必要条件となる——」

医歯薬出版株式会社

<https://www.ishiyaku.co.jp/>

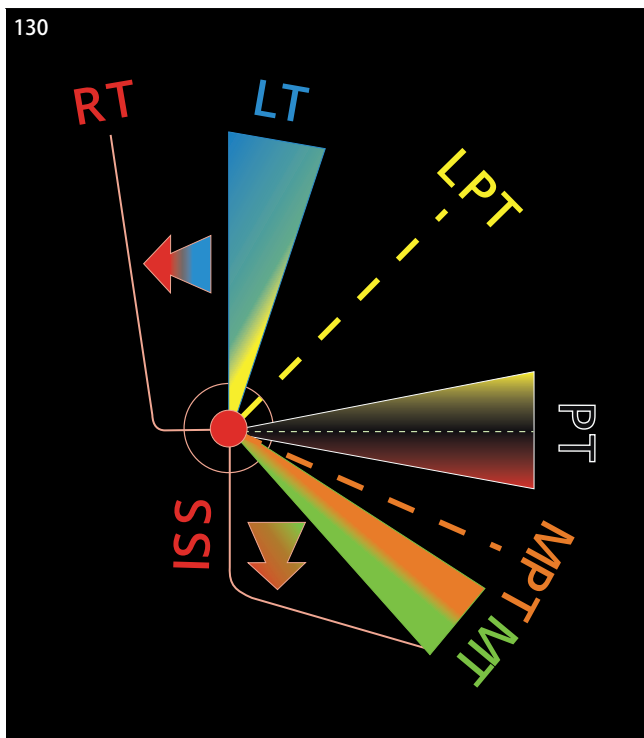


図130 オククルザルコンパス。咬合運動の座標である。

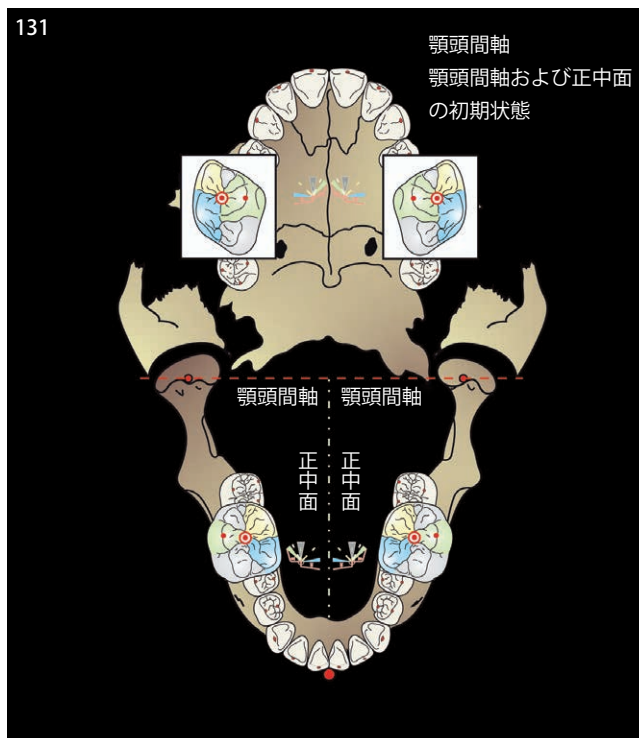


図131 初期状態の上下顎両側第一大臼歯。

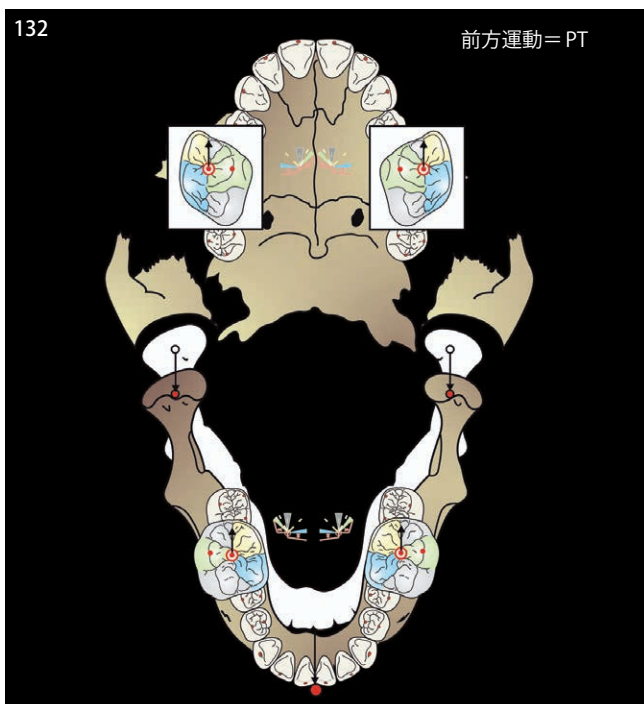


図132 黒線で表記された前方運動時の第一大臼歯。

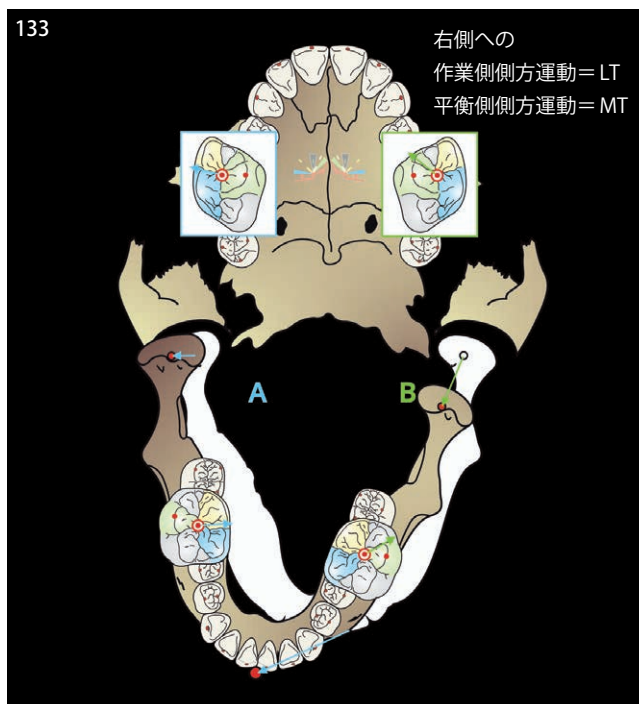


図133 右側方運動時の大臼歯における作業側側方運動（青線）と平衡側側方運動（緑線）。

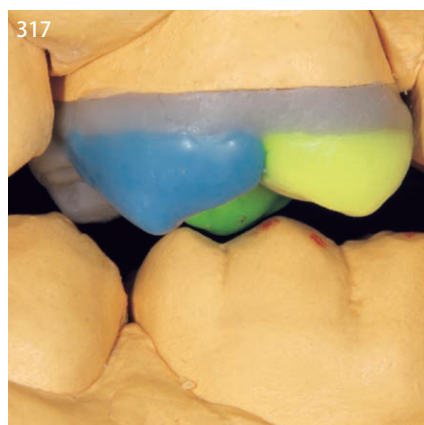
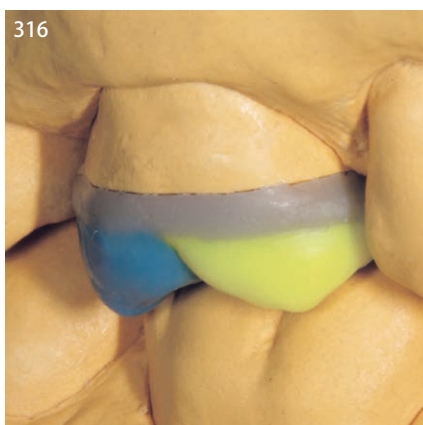
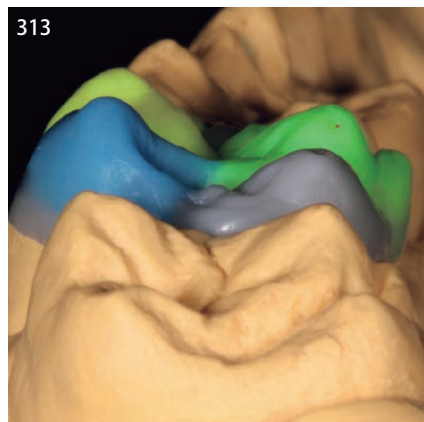
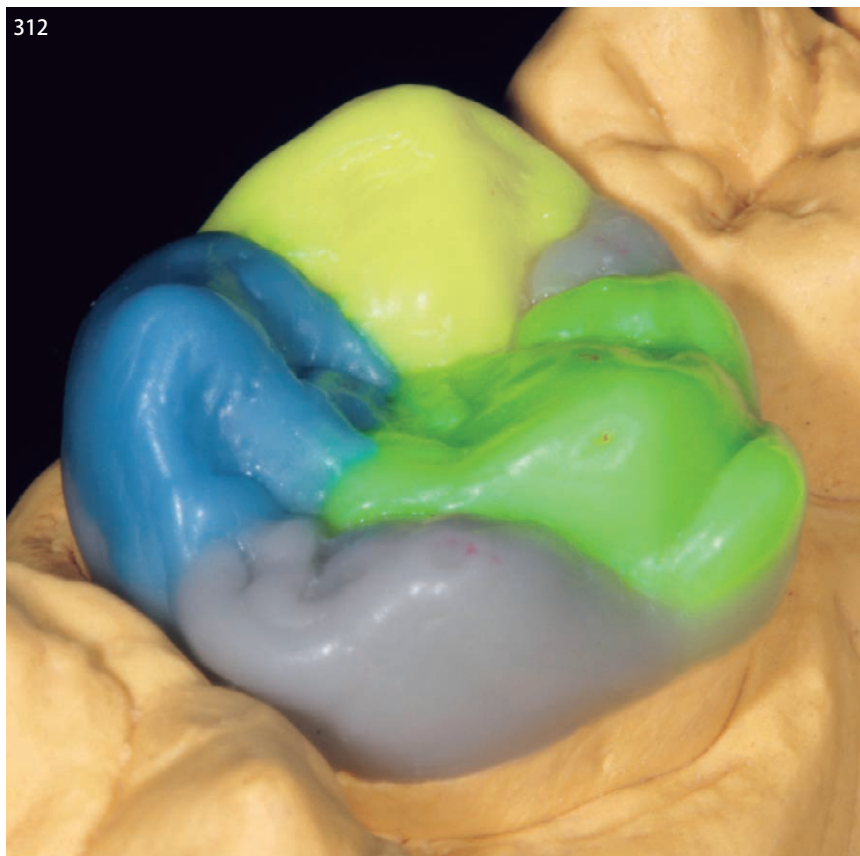
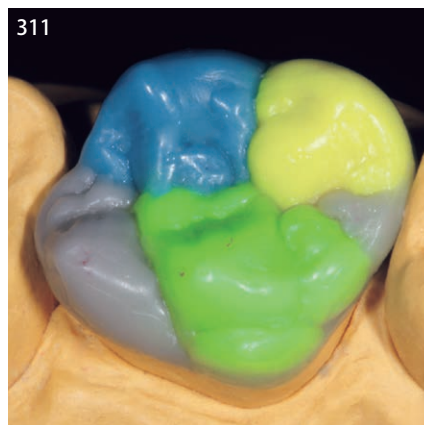
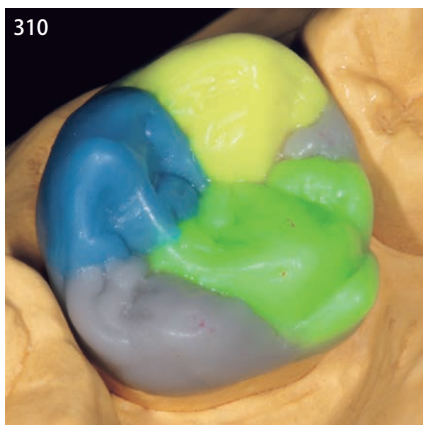
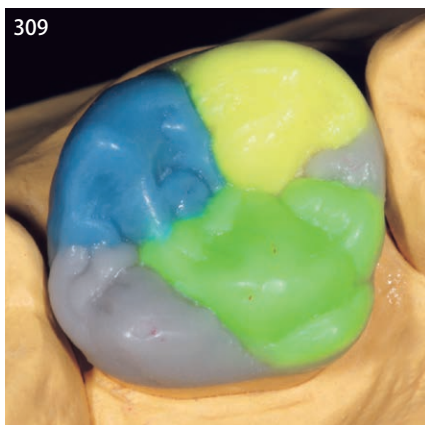


図309～317 完成した上顎第一大臼歯.

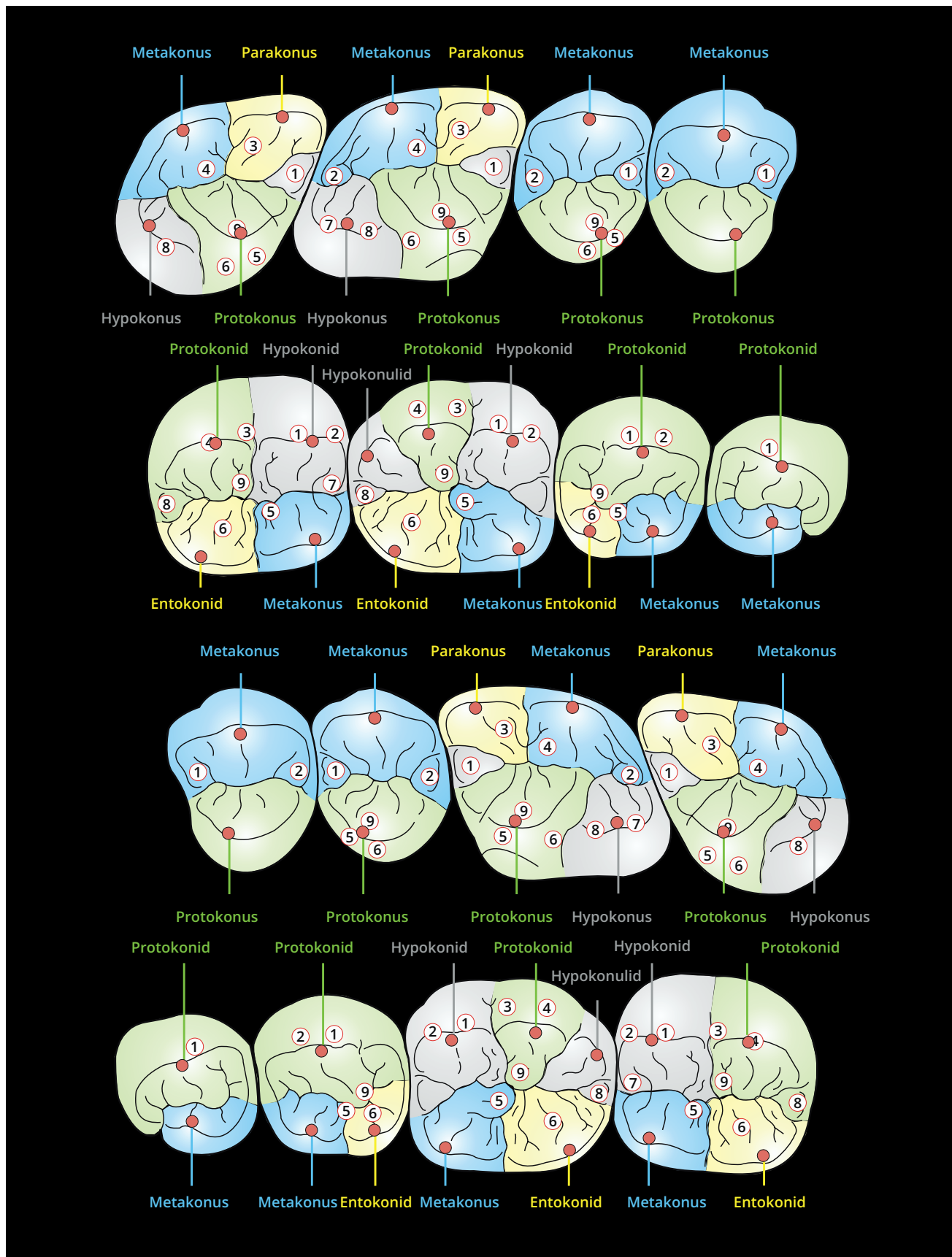


図371 アンゲルの分類Ⅰ級における接触関係。①～⑨が理想的なセントリックストップである。

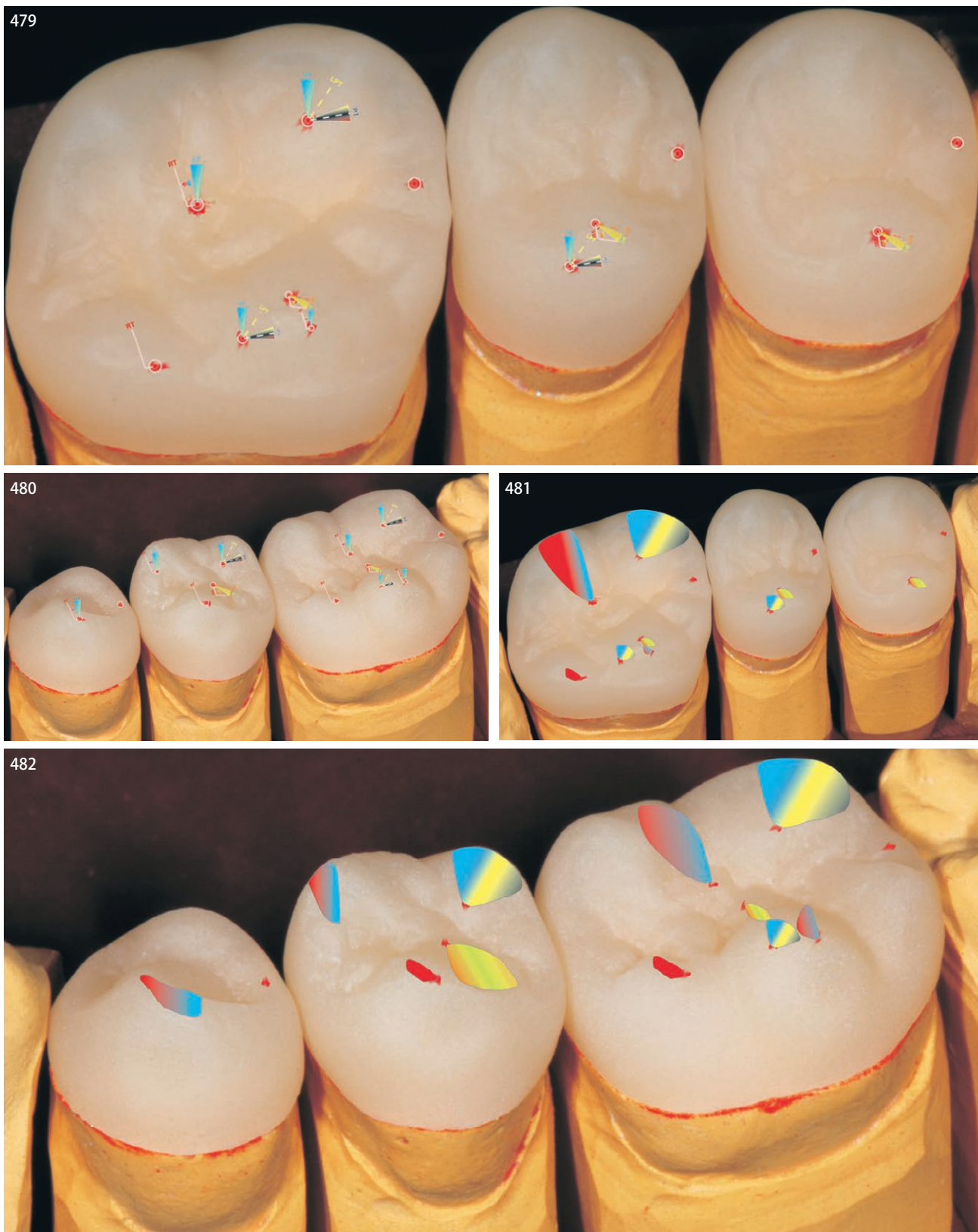


図479～482 それぞれのセントリックコンタクトポイント上に座標を置いてみると、干渉コンタクトをどのように削合するべきかが理解できる。

NATを応用したプレスセラミックスの臨床

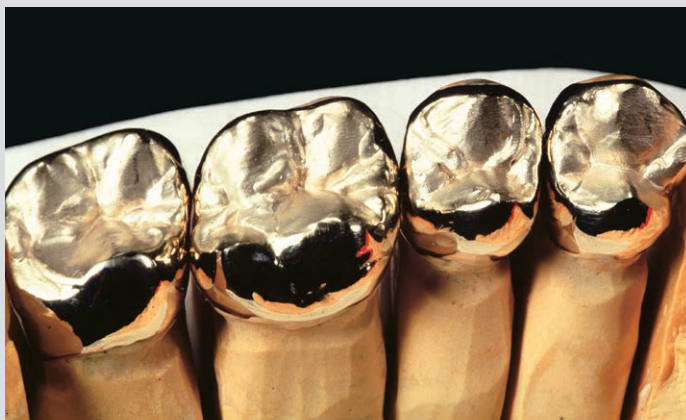
—— 臼歯部咬合面形態の標準化に関する一提案

本書の巻末付録として、著者 Ztm. Gunther Seubert 氏によるドイツ『dental dialogue』誌掲載論文より、歯科技工士マイスター Dieter Schulz 氏による「自然に適ったワックスアップテクニック（NAT）」の理論に則したプレスセラミックス臼歯部補綴装置に関する内容をアトラス形式で供覧する。NATとプレスセラミックスとの組み合わせは、e.max CADも含めて、患者本位の歯科医療としての要件を満たし、長期的予知を保証するものと言えるであろう。

（訳者）



① 自然に適ったワックスアップ（NAT）の概念に基づいて形成したワックスアップ。



② ①のワックスアップから置換した金合金クラウン。



③ NATの考え方に基づいて咬合面形態を構築したオールセラミックスクラウン（別症例）。